

あいち農産物生産流通レポート

平成20年7月号

情報サロン		
・省力摘心機で大豆が増収	-----	1
	(農業総合試験場)	
地域トピックス		
・病害虫抵抗性・良食味・高品質 = 水稻新品種	-----	2
「愛知108号」の開発	(農業総合試験場)	
東日本情報		
・果実の入荷状況から見た重油高騰の影響(12~5月)	-----	3
	(東京事務所)	
西日本情報		
・商標など知的財産権について	-----	5
	(食育推進課)	
フラワーページ		
・花き卸売市場の仕入れ担当者が産地に求めるもの	-----	7
	((株)大田花き 萩原正臣)	
青果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	-----	8
・名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し	-----	9
花き		
・切花・鉢花の7月の見通し(県内市場)	-----	21
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2008年4月)	-----	25
関連指数	-----	26

内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所行政課農産物流通対策グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

省力摘心機で大豆が増収

研究の背景と概要

愛知県における平成 19 年産の大豆栽培面積は 4,230ha で、8 割以上が矢作川流域を中心とした西三河地域に作付けられています。

農業総合試験場では平成 12～14 年にかけて、大豆の低収要因を解明するため、県内の生産地 45 ほ場において生育状況の実態を調査しました。その結果、地下水位が高く肥沃である西三河地域南部・矢作川下流域の沖積地帯では、大豆の草丈が伸びすぎ蔓化（つるばけのこと）・倒伏が発生し、莢着きの減少や、着いた莢をコンバインが収穫できない 収穫ロス が、収量低下の原因であると解明しました。

そこで、平成 16 年に、大豆の生育抑制手法である摘心を効率的に行える省力摘心機を開発し、現地ほ場で実証試験を行いました。その結果、省力摘心機によって摘心処理が効率的に行われ、伸びすぎを抑制して収穫ロスをなくす効果が明らかになりました。さらにこの試験から、摘心処理が大豆の増収効果を有することが判明しました。

省力摘心機の概要

省力摘心機は、水田乗用管理機の前部に刈り幅 1,200mm の茶樹切り戻し用カッターを搭載したもので、一時間当たり約 85a の作業が可能です（写真）。



省力摘心機による作業状況

摘心処理が大豆の生育・収量に及ぼす影響

摘心処理を行うことにより、大豆の草丈は 10～15cm 短くなり、倒伏は軽減しました。

本機による摘心は、開花期の前に茎の先端だけでなく上位の葉も切除しますが、生育に問題はありません。むしろ、上位の葉が除かれることにより株元まで光が届きやすくなり、健全な葉が新たに発生します。そのため慣行栽培に比べて莢数が多くなり、10～20%程度収量が増加することが明らかになりました。また、摘心にはダイズの栄養を賄う根粒菌を活性化する効果があることもわかりました。摘心処理の時期は、大豆の開花 10 日前～開花期が、倒伏抑制や増収効果が高くなり良好です。

今後、摘心処理が大豆成分等に与える影響についての検討を行う予定です。また、効果が安定して得られる作業体系を確立することで、本県大豆の高位安定生産の一助になることを期待します。

病害虫抵抗性・良食味・高品質=水稲新品種「愛知108号」の開発

農業総合試験場作物研究部では、平成5年度から、複数の重要な病害虫に対して抵抗性を持ち、食味の良い水稲品種の開発に取り組み、このたび、新品種「愛知108号」を開発しました。

この品種は、病害虫に強いため、農薬使用を減らすことができ、安全・安心なコメ生産が可能になります。

育成経過

「愛知108号」は、平成5年に、「あさひの夢」を母とし、「大地の風」を父として人工交配を行い、その後代から育成した品種です。

平成13年より奨励品種決定調査試験に供試し、本県平坦地域への適応性、耐病虫性、食味等の検討を重ね有望と判断し、平成19年9月20日品種登録申請を行い、県の奨励品種にも採用されました。

「愛知108号」の特徴

- ・水稲の重要病害虫である縞葉枯病、穂いもち、ツマグロヨコバイ、セジロウンカの4種の抵抗性を持っています。
- ・食味は、「祭り晴」、「あさひの夢」より優れており、特に、味と粘りが勝っています。
- ・外観品質は「祭り晴」より優れ、高温年でも未熟粒が少なく、良質米が安定生産できます。
- ・出穂期、成熟期は「あさひの夢」、「祭り晴」より2日程度遅い早生品種です。
- ・強稈で、耐倒伏性は強です。
- ・収量性の年次変動は小さく、「祭り晴」より多収であり、「あさひの夢」と同等以上の安定した収量が得られます。



愛知108号 あさひの夢

苗へのツマグロヨコバイ寄生状況

* 抵抗性を持つ愛知108号にはツマグロヨコバイが寄りつかない

栽培上の留意点

- ・適応地帯は、温暖地平坦部です。
- ・作型は、早植栽培～普通期栽培（田植え：5月中旬～6月上中旬）が適しています。
- ・耐倒伏性は強ですが、良質・良食味生産のために多肥栽培は避け、適期刈りに努めましょう。

最後に、

「愛知108号」は、総合的に優れ、自信を持って世に送り出す新品種です。種子は、平成22年作より供給される予定ですが、本県産の銘柄米として作付拡大されることが期待されます。

果実の入荷状況から見た重油高騰の影響（12～5月）

卸売市場担当者から、「重油高騰のため、果樹産地が加温開始時期を遅らせたり、加温温度を低くするなどの影響で出荷時期が遅れている。」という話をよく聞く。そこで、全国から荷が集まる東京都中央卸売市場において果実の入荷量と価格がどのように変化しているか調べた。

1 東京都中央卸売市場の果実入荷状況（平成19年12月から平成20年5月）

果実全体の入荷実績は、入荷量25万トン（前年対比112%）、平均価格329円/kg（同83%）であり、入荷量が増加し平均価格は下がったという結果であった。しかし、露地もののみかん・かんきつ類を除くと入荷量12万トン（同99%）、平均価格473円（同98%）と入荷量、平均価格ともに前年を僅かに下回ったにすぎない。

この中でもハウス加温するものを類別に見ると、3つのタイプに分けることができる。

メロン類、すいか類：入荷量はやや減少しているが価格はほぼ前年と変わらないもの

国産マンゴー、おうとう(サクランボ)：入荷量が増加して価格が1～2割低下しているもの（マンゴーは宮崎県知事のトップセールス効果で3・4月はかなり価格が高い）

ハウスみかん、いちじく：入荷量が大幅に減少（3～4割減）しているにもかかわらず価格は前年並みのもの

は重油消費量が比較的少なく、入荷量の影響は比較的少なかった、は重油の消費量が多いが、生産県が限られており生産振興とPRがうまくいっていると考えられる。は重油の使用量が多く入荷量に大きな影響があった本県産果実の主力品目であるので詳細に分析する。

表1 東京都中央卸売市場における果実の入荷状況

都中央月報より

	12月		1月		2月		3月		4月		5月		合計	
果実計	63,636	114	40,636	107	43,899	125	38,945	105	32,698	115	32,321	103	252,135	112
	307	81	316	78	313	79	349	83	359	90	355	92	329	83
うち、みかん・かんきつ類を除く	21,493	99	21,493	98	16,213	104	17,118	91	19,652	106	20,451	97	119,564	99
	523	102	523	97	524	96	503	96	488	98	443	96	473	98
メロン類	1,136	96	486	100	459	113	588	73	1,658	87	4,799	87	9,128	91
	894	114	900	79	959	77	967	122	616	105	444	104	615	102
すいか類	247	86	95	97	162	123	468	99	2,245	98	6,571	96	9,788	97
	215	93	310	108	411	99	372	87	278	99	227	99	249	98
国産マンゴー	-	-	-	-	-	-	28	35	25	85	71	115	99	105
	-	-	-	-	-	-	7,785	178	5,322	132	5,891	70	5,800	83
おうとう	1	134	1	224	1	273	1	103	14	110	248	148	266	145
	1,353	76	3,550	93	11,620	48	19,212	93	8,197	88	2,314	85	2,702	82
ハウスみかん	-	-	-	-	-	-	-	-	30	80	212	66	241	65
	-	-	-	-	-	-	-	-	1,858	88	1,432	107	1,484	106
いちじく	1	96	1	39	0	13	1	15	10	86	56	75	69	71
	817	126	978	116	1,387	100	1,393	90	1,567	101	1,250	107	1,295	105

注1) 上段：入荷量(t)、下段：販売価格(円/kg)、点線より右側は、対前年比(%)

注2) 都中央の統計上はハウスみかんでも、無加温のものは除外した

2 愛知県産にかかわる果実品目について

ハウスみかん

東京青果での初入荷は前年とほぼ同時期の4月1日、大分県産から入荷した。愛知県産については蒲郡産が7日から始まった。

4月は、露地の貯蔵みかんが多く残っていたことから、前年比80%の入荷量にもかかわらず、価格は前年比88%と前年を下回った。5月に入りさらに入荷が少ない状況(同66%)が続いたが、価格は1,432円/kg、前年対比107%と、前年をやや上回ったに過ぎなかった。

入荷が大きく減少したのは、佐賀が重油価格の高騰により加温時期を遅らせたため、4月、5月の入荷量が大きく減少したことが要因と考えられる。価格については、貯蔵みかんの影響や加温温度を低くした影響から着色・糖度が低下したことが安値の原因との声もある。

いちじく

1～2月の極早期に出荷する作型が激減したが、減少幅に見合った単価の伸びとなっていない。冬期間、愛知に次ぐ産地は静岡であるが、今年から12～1月の間の出荷が無くなり、周年出荷でなくなった。愛知でも、12～5月までの出荷量は前年比75%であるものの、3月出荷に至っては前年比3%と激減している。

表3 都中央いちじく入荷状況

	12月		1月		2月		3月		4月		5月		合計	
	入荷量(kg)	販売価格(円/kg)												
いちじく計	1,197	96	578	39	417	13	532	15	10,369	86	56,237	75	69,330	71
	817	126	1,692	116	1,405	102	1,393	90	1,567	101	1,250	107	1,295	105
愛知	1,117	138	578	78	170	11	32	3	10,243	89	56,150	75	68,290	75
	848	120	1,692	143	1,645	118	2,318	140	1,567	100	1,247	107	1,294	106
静岡	0	-	0	-	242	15	500	21	126	20	26	10	894	16
	0	-	0	-	1,206	88	1,333	90	1,560	101	1,579	128	1,338	91

注1) 上段: 入荷量(kg)、下段: 販売価格(円/kg)
点線の右側は対前年比(%)

3 まとめ

このように、重油高により市場でのハウスものの果実入荷量が大きく変化している。いちじくのように入荷量が激減しているのに価格が上昇していない品目もあり、本当にこの時期に需要があるのかとあらためて考えさせられるものもあった。

今後、さらなる原油価格の高騰が予想されるが、経済情勢が思わしくなく、価格への転嫁は難しいとの市場関係者の声が多く聞かれる。今後の産地の動きに注視していきたい。

表2 都中央ハウスみかん入荷状況

	4月		5月		合計	
	入荷量(t)	販売価格(円/kg)	入荷量(t)	販売価格(円/kg)	入荷量(t)	販売価格(円/kg)
ハウスみかん計	30	80	212	66	241	68
	1,858	88	1,432	107	1,484	105
愛知	12	96	26	72	37	78
	1,963	83	1,635	108	1,738	101
佐賀	0	55	127	65	127	65
	2,331	96	1,411	107	1,413	107
大分	15	84	47	87	62	86
	1,855	87	1,409	106	1,519	99

注1) 上段: 入荷量(t)、下段: 販売価格(円/kg)
点線の右側は対前年比(%)
注2) ハウスみかんは無加温のものは除外した

商標など知的財産権について

知的財産・知的財産権とは

知的財産制度 = 知的創造活動によって生み出されたものを、創作した人の財産として保護する制度

知的財産基本法（15年3月1日）

この法律で「知的財産」とは

発明、考案、植物の新品種、意匠、著作物その他の人間の創造的活動により生み出されるもの（発見又は解明がされた自然の法則又は現象であって、産業上の利用可能性があるものを含む。）

商標、商号その他事業活動に用いられる商品又は役務を表示するもの
営業秘密その他の事業活動に有用な技術上又は営業上の情報

この法律で「知的財産権」とは、特許権、実用新案権、育成者権、意匠権、著作権、商標権その他の知的財産に関して法令により定められた権利又は法律上保護される利益に係る権利をいう。

知的財産を軽視した場合のリスク

リスク1	独自の商品が売れていたが、すぐに類似品が大量に流通するようになった。
リスク2	取引先に売り込みに行ったところ、取引先が先に権利化してしまい、ロイヤリティの支払を余儀なくされた。
リスク3	取引、営業の中でアイデアやノウハウが流出してしまった。
リスク4	共同研究でトラブルが起き、不測の損失を被った。
リスク5	突然、他社から侵害に対する警告を受けた。

商標制度の概要

商標 = 業者の商品やサービスに使用するマーク、他の商品やサービスとの区別するマーク（トレードマーク、サービスマーク）

商標権は、指定商品・役務について登録商標を独占的に使用する権利（使用权）であるとともに、他人によるその類似範囲の使用を排除することができる権利（禁止権）がある。

権利者 使用者の業務上の信用の維持（これまで積み重ねてきた企業努力のあらわれ）、出所表示機能：同一の商標に付した商品やサービスは、いつも一定の生産者、販売者または提供者によるものであることを示す機能

需要者 需要者の利益の保護（その商品やサービスがどの企業のもので、信頼できるものなのか判断できるもの）

地域団体商標 = 「地域名」 + 「商品名（役務名）」のみからなる文字商標
ニセモノ排除、消費者保護、地域ブランド戦略の後押し

地域団体商標として認められるための要件

団体の適格要件（加入の自由が保証された農協、漁協、商工組合等）

地域名と商品（役務）の密接関連性（地域の名称が商品の産地など）

使用による一定程度の周知性の獲得

（例えば、隣接都道府県に及ぶ程度の需要者に認識） 等

地域ブランド = その地域にしかない特徴ある商品づくりで地域のイメージを高めていく

- ・ 生産者のこだわり
- ・ 地域らしさ
- ・ 消費者ニーズ
- ・ 消費者の信頼（評価と期待）を高めることが重要

地域団体商標を取得する意義について

地域名をつけた商品やサービスを他地域や諸外国による「ニセモノ」から守る。

取得した地域団体商標の管理ルールを作ることで、業界や地域の品質を高めることにつながる効果がある。

商標出願を契機に地域の業者や業界の「地域ブランド」に対する取組を促進し、地域や業界団体が一丸となった体制作りにつながるという効果がある。

（参考）地域団体商標の出願・登録状況について

都道府県別出願内訳上位 10 位（5 月末現在 8 1 3 件出願）

商標	都道府県	件数	商標	都道府県	件数
1 位	京都	1 3 8	6 位	石川	3 3
2 位	兵庫	4 6	7 位	愛知	2 9
3 位	岐阜	3 7	8 位	新潟	2 6
4 位	北海道	3 6	9 位	東京	2 5
5 位	沖縄	3 4	10 位	長野	2 4

愛知 2 9 件中、登録 8 件、うち農林水産物 2 件

[参考資料：知的財産権制度入門、地域団体商標 2008（特許庁）]

株式会社 大田花き
営業本部第1GPマネージャー 萩原 正臣

花き卸売市場の仕入れ担当者が産地に求めるもの

原油高騰の影響を受け、他の産業同様に花き業界も変革が求められております。消費地で実需者と相対しながら日夜販売している立場から、産地への提言といった形でご提案をさせて頂き、業界活性化に繋がればと考えております。

さて、原油高騰の影響が顕著に出始めている点として、景気の減速（サブプライムショックもございますが・・・）生産サイクルのアンバランス 品質低下等が上げられ、正に必要な物（消耗材）への投資とプレミアムな、現実からかい離れた高額な商品の動きが今の日本では良くなっていると感じます。

その中で流通の仲立ちを成す市場の機能として、川上 川下の情報流（トレンド）や商流（B to B取引）を橋渡しし、スムーズな取引環境を構築する点が最たる役割かと考えています。そのために、産地・実需者の利益率確保に向けた提案や集荷・販売促進が主な機能と捉えています。

具体的には、実需の側面からいつどんな商品が求められているかをリサーチし、産地には、作付に対する提案を行うと共に、生産量の減少に伴い販売力のある顧客と産地を紐付けし、安定した取引環境を提案する事を日夜実践しております。

目に見える加温等のコスト低減も大切ですが、嗜好品である花を最も消費者が欲しい時期に、欲しいスペック（仕様、規格）や価格で供給して頂く作業を今一度見直し、生活の中に花を取り込んだ豊かさを供給して頂きたいと考えます。

花き業界は3気商売と申します。天気・景気・やる気が最も大切で、前の2項目はなかなか意識的に変える事が困難ですが、最後のやる気に関しては携わる者の気持ち次第で広がりを持たせる事が可能と考えます。

今の花が求められているポジション（小売、ブライダル、葬儀等）を理解し、そのスペックに合った商品の生産流通と、安定的に再生産が可能な利益率の確保（生産・流通コストの圧縮や機会ロスの低減等）を行いながら、疲れた日本人の副交感神経を和らげる、貰って・飾って嬉しい商売にぜひ取り組んでまいりたいと考えております。

愛知産青果物の動向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

名古屋市中央卸売市場(品目:いちじく)

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	うち愛知産		
19年実績	45	45 (100%)	1,045	1,045	愛知 (100%)
20年見通し	45	45	1,050	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>前年より早めに入荷が始まったが、梅雨入り後も雨が少なく湿度が低く生育が進まないことに加え、重油の高騰により、知多地域でハウス栽培の作付面積が大幅に減少していることから、入荷量は少なかった前年並みとなるであろう。 病害虫が少なく秀品率は高いことから、価格は前年並みに高めで推移する見込み。</p>			<p>ワンパックが400gに統一されたところだが、少量での販売に対する需要は引き続き多いので、さらなる工夫が必要かもしれない。また、「愛知のいちじく」を、子どもや若年層にさらにPRすることがのぞまれる。 収穫の際には未熟、過熟を避けるとともに病害虫やカビなどに注意し品質重視の出荷を心掛けてほしい。</p>		

東京都中央卸売市場(品目:とうがん)

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	うち愛知産		
19年実績	719	230 (32%)	104	130	神奈川 (27%) 静岡 (18%) 岡山 (11%)
20年見通し	740	-	100	-	
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>沖縄産から切り替わり、5月下旬から始まった愛知産のほか、神奈川、静岡などの関東産が中心の入荷となる。 各産地とも栽培面積は増加傾向。生育は概ね順調であるが6月中旬以降の天候不順による影響が懸念される。 全体の入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>			<p>とうがんは本県の夏野菜を代表する作物の1つである。業務用の需要割合が高く、品質も良いため、比較的高値で取り引きされているが、料理方法のPRなどにより一般家庭での需要拡大が望まれる。 出荷時における若採りと表皮の粗毛除去を励行し、形や色を揃えるなど高品質の保持に努めて欲しい。</p>		

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		愛知県 平成17年 = 100				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
全 国	18年平均	100.3	105.8	104.0	100.8	102.2
	19年平均	100.3	103.1	109.3	102.7	103.1
	20年 2月	100.5	105.0	99.0	105.6	103.1
	3月	101.0	108.1	95.7	106.0	104.6
	4月	100.9	106.5	93.7	106.6	105.8
愛 知 県	18年平均	100.2	103.9	102.5	99.8	103.9
	19年平均	100.5	100.3	111.1	100.7	103.5
	20年 2月	100.1	99.1	97.5	104.0	99.0
	3月	100.8	102.6	97.3	104.7	104.9
	4月	100.8	102.4	94.9	103.1	103.5

項目 年月		農業物価指数 (平成17年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
全 国	18年平均	102.9	97.8	108.2	120.6	99.0
	19年平均	97.4	94.6	100.5	109.9	99.4
	20年 1月	92.7	91.9	101.0	72.8	97.2
	2月	99.7	92.3	117.6	83.9	100.7
	3月	102.2	92.1	120.8	79.5	102.4
4月	97.9	93.1	106.8	82.4	100.3	

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち米 (単一産、 「コヒカリ」 以外)	キャベツ	はくさい	ねぎ	レタス	ばれいしょ	だいこん	にんじん	たまねぎ	きゅうり	トマト	生しいたけ	りんご(ふじ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年平均	2,256	174	184	606	426	278	161	359	217	538	630	193	502
19年平均	2,229	147	153	589	440	269	137	295	203	530	629	206	535
20年 2月	2,223	158	122	619	497	249	114	253	199	751	601	216	458
3月	2,223	173	214	633	491	255	153	367	203	525	629	215	476
4月	2,248	145	209	639	372	277	140	452	209	471	674	190	507
品目 単位 年月	みかん	グレフ イル プ イツ	オレン ジ	いちご	バナ ナ	キ ウ イル イツ	緑(せ 茶ん 茶)	カ ネ シ ョ ン	き く	パ ラ	豚(口 肉 ス)	牛(口 肉 ス)	ま ぐ ろ
	1 kg	100g	1 kg	100g	1 kg	100g	1 本	100g					
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年平均	546	354	404	153	245	686	609	159	168	312	233	793	497
19年平均	689	356	509	165	258	705	602	163	170	315	221	776	506
20年 2月	427	379	416	158	253	653	594	163	171	340	223	826	504
3月	483	342	435	142	263	655	602	166	182	335	231	832	497
4月	-	310	381	127	260	647	613	158	171	327	226	775	465

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 421
平成20年7月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417